原元気会（南大隅町）

発表者：原　　森　一　氏

ただ今ご紹介をいただきました南大隅町の原でございます。

「地域に笑いとなごみを誘う」原元気会の活動事例を発表します。

1　はじめに

私たちの南大隅町は、大隅半島の南端に位置し、原元気会のある原集落には、文久二年（1,862年）生麦事件が原因となって始まった「薩英戦争」に備え、構築された「台場」が原型をとどめた状態で残っています。地元では「お台場跡」と親しまれ、周辺は「台場公園」として集落民の手で維持管理され、この「台場」に設置されている二基の大砲のモニュメントからは、往時を偲ぶことができます。

また、「佐多岬一帯の開発」や「雄川の滝の整備」も完成を間近に控え、地域活性化の弾みに期待がかかります。

2　これまでの歩み

「原元気会」のこれまでの歩みを簡単に述べることにします。

昭和52年から平成16年頃まで、この時期は三世代同居が多く、高齢者のほとんどは「老人クラブ」に所属し、当時の多様で活発な活動は今でも語り継がれています。この時期の特徴として、ほとんどの家庭に後継者がいたことです。

平成16年から平成20年頃までを世代交代の時期ととらえています。会員の自然減少に加えて価値観の多様化の風潮もあり、新規加入の激減は活動の衰退に拍車をかけ、老人クラブそのものが休止状態となりました。

これではいけないと、平成20年当時の自治会役員を中心に、60～ 70歳代が一丸となり、「このままでいいのだろうか」、「自分たちの手で、地域に元気を取りもどそうや」という熱き思いが一気に高まりました。その背景には、少子高齢集落、さらに小学校の統合が大きく上げられます。先の関係者が議論を重ね、ここに原自治会版老人クラブが「原元気会」として、名称も新たに60歳以上を会員として力強い出発をしました。現在の会員は、ほとんどが後継者がいないことです。それでも、高齢にして農業の現役として職務を全うしながら、多岐にわたる活動に積極的にかかわり、地域貢献しているところにすごさがあると言えます。

3　会の現状

会員の状況等についてご紹介します。

現在、原元気会は正会員が女性18人、男性25人の43人です。どの組織でも言えることですが、総会において年間の方向を共通理解し合い、時期を逸しない役員会で細かいことを確認し、各班長を通じて全会員への周知を図り、各事業の具体化にかかるようにしています。一方、その過程において自治会との連携が会員一人一人の協力態勢を高めているようです。なお、準会員は16人。健康面を配慮し、各班内での活動に重きを置いています。

4　主な活動

それでは、本題でもある活動事例の発表に入ります。

まず、生きがいづくりとして花いっぱい活動や七夕祭り、案山子祭りに取り組んでいます。

花いっぱい活動では、有志会員の協力で国道269号沿線二か所、約10アールでコスモスの栽培をしています。また、対岸にそびえる開聞岳が眺望できる台場公園駐車場周辺でもプランター

利用による春と秋の季節の花を咲かせ、道行く人を楽しませているようです。

七夕祭りは、素材を身近なものと限定してあることから、チラシ・包装紙・肥料袋など駆使し、各班創意工夫し、見事な七夕飾りが出来上がり、町内外の夏の風物詩として定着してきました。町内外はもちろん、近年宮崎方面にもファンが増えてきたのが案山子祭りです。どの班も１年がかりで構想を練り、社会問題・日常生活・地域の特色・童話の世界等々、年々発想も技能も大きな向上が見られます。会員相互審判では、「思わず振り返って見るで賞」「思わず笑うで賞」､「今夜夢に出てくるで賞」など７つの賞が決まった後、来賓が選ぶ「大賞」があります。昨年は「イノシシと猟師」が大賞でした。案山子コンテストの日は、自治会と合同で集落民総出による上半期諸事業のご苦労さんと下半期への鋭気を養う目的で懇親会を行います。これは、集落の勢いづくりに役立っているようです。

次に、地域活動についてです。

主として集落の五穀豊穣・地域の安全を見守る稲荷神社の整備・清掃を年３回実施しています。

次に、ふれあい活動についてです。

班ごとの活動として準会員宅の訪問を実施し、お茶のみや集落内の楽しい話題を中心にした内容などで交流に努めています。スライドは、集落センターで準会員を招いて食事会の様子です。

また、元気会１年の頑張りの慰労と研修視察を兼ねたのが、年度最後の「お楽しみ一日旅行」です。毎年30人ぐらいの会員が参加しています。昨年は、台場跡の発掘調査があったこともあり、県立縄文の森・埋蔵文化財センターをコースに入れました。スライドは、案山子作りの充実発展の参考となればと、町の特別の計らいで実施した長島町の造形美術展見学の１枚です。

活動例最後は、町老連や町社協の支援をいただき実施している事業についてです。

他地域老人クラブとの交流研修・健康学習活動があります。日頃会えるようで、あまり会うことがない、でも少しは知っているそんな関係もある他老人クラブとの交流は、学習と楽しみが兼ね備わり、なかなか好評です。

学習活動は、昨年度栄養教室を３回実施しました。美しく老いていく、健康老人を目指した講師の人間味あふれる講話や今夜からでも取り組める献立・身近な食材だけに、会員が楽しく、真剣に学べる学習のひと時でもありました。本年度は、栄養教室、運動教室、口腔教室の３回を計画し、すでに10月で終えています。

その他の活動として、町老連や地区老連主催の健康維持・向上関係の各行事への参加も農作業の段取りを調整しながら、積極的に参加できるように努めています。

5　おわりに

原元気会が変わらない元気を維持している要因を、二つの面からとらえています。

一つは会員自らのことです。活動の目玉となっている春の「お楽しみ一日旅行」や夏の七夕祭り、初秋の案山子祭り、年間を通した花いっぱい活動や地域活動、そして町社協等の支援による学習活動などを一人一人の会員が「実践することの楽しさ」として理解し、その上で「とにかく行動することが、地域の活性化・元気につながるんだ」と自負するま

でになってきたことがあげられます。

二つには、自分たちが取り組んできた活動が他から評価されるようになってきたことです。

「皆さんの協力される姿はすごいですね」とか「今年も案山子のシーズンになりましたね」などと地域内外のみなさんからいただく、さりげない暖かい声が一番の励みになっていることは確かです。スライドは、昨年一日旅行の際の吉野公園での１枚です。

これからの課題は、集落の総人口の減少に伴う新規会員の加入の厳しさや過疎の地の子どものいない高齢者集落の実態に応じた活性化の維持の在り方、高齢者自身の生き方など、スライドに見る会員を中心に、今、知恵を出し合うことだと考えています。

ご清聴ありがとうございました。